

日本の医療政策の将来

吉村 信

参加者 61 名を数えた 4 月の福井県内科医会総会の特別講演Ⅱでは、東京医科歯科大学・環境社会医歯学講座・政策科学分野教授、河原和夫先生に「日本医療政策の将来」と題し、ご講演を頂いた。少子高齢化による労働人口の減少と、社会的脆弱者数の増加に対し、平成 25 年度には医療系学部に 127,695 人と、同年齢人口 1,234,000 人の 10% 以上もの人が医療系学部に入学しているが、全産業の 1 人当たりの売上高 31,670,531 円に対し医療福祉業は 7,671,553 円と著しく生産性が低いため、AI や IT 産業との連携を通じて効率化を計る以外に増大する医療費に対応する手段はないであろう。又、看護分野に外国人材の導入が計られているが、日本人と同じ給与体系にしても、日本より条件の良い国はいくらもあり、やはりこの分野にも AI や IT を導入する他は無く、今の外国人材導入策は拙速過ぎるのではないか。地方の介護施設業種が介護空白地帯東京への進出を計っている。等々、日本の医療政策のブレーンとして収集された統計資料、東京を始めとする全国各地の自治体の医療行政の相談役として得られた情報などを元に、中央から離れた福井の地では知り得ぬ貴重な全国的医療のトレンドを、法学部・医学部卒業という先生特有の複眼的視点から非常に明解に説明して下さった。参加者一同は、もう我々の身近に迫っている医療危機の深刻さに背筋が寒くなると同時に、改めて自院の経営を見直す機会が与えられた講演の内容に深く感じ入った。

追記：講演後のアンケートでは、3 分の 2 以上の参加者が御講演に感銘を受けたとのことであった。臨床家以外の講師の招請支援に消極的なメーカーが多い中、株式会社ツムラが、我々に重要な医療政策講演開催に終始協力的であったことに、改めてこの場を借りて感謝させて頂く次第である。